

## 一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおりに質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2023年 2月14日  
東村山市議会議長 あて

議席番号 23番  
質問者 山田 たか子

### 記

#### 1. 秋津駅南北通行問題の解決に向けた取組みを

秋津駅北側に住まわれる方の南北通行の不便さは2019年の陳情により、地域の方々の共通課題として大きな声となった。しかし、その改善にまだまだ至らず、地域住民の不便は解消されないままである。市民要望の改善を求め、この問題に対する市の認識と課題を伺う。

1. この問題に対する市の認識を伺う。
2. 現在、駅構内の通行を行っている市民の状況を伺う。
3. 2019年の陳情第5号「秋津駅構内の南北通行券等の検討を求める陳情」では、福祉の視点で解決への検討を求めている。市はその視点に立って検討を行ったとのことであるが、自治体の役割である「住民福祉の向上」として主体的に検討をなされたのかどうか、市の見解を伺う。

#### 2. 農福連携前進で東村山の農業保全の一助に

担い手の高齢化・後継者不足・人手不足などが、市内農業の課題となっている。いま日本は先進諸国で最低の食料自給率38%から、一層の低下が懸念されている。農業を支えてきた世代の引退が加速する状況で、今後の農業の発展を遂げることは私たちの命を守るために欠かせない課題である。地球温暖化や貧困と飢餓の拡大など人類の存続を脅かす危機の克服するために、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）の達成が、国際的な課題でもある。より広い分野との連携で、市内農業の課題解決に取り組んでいきたいと考え、以下伺う。

1. 農地保全に向けた、市の取組みを伺う。
2. 市の農福連携の進捗状況と、先進自治体の取組み状況を伺う。

### 3. 英語スピーキングテストから見えてくる教育のあり方

中学3年生や保護者から、都立高校入試スピーキングテストへの不信の声が相次いでいる。テスト環境はどうだったのか、テストに瑕疵はなかったのか。子どもたちの人生を左右する高校入試へのスピーキングテストを、市の教育委員会としてどのように捉え、今後の対応を検討していくのか、伺う。

1. 市内のスピーキングテスト受験対象人数と受験者数、不受験者数をそれぞれ伺う。
2. 推薦入試合格者のスピーキングテスト受験状況と、スピーキングテストの活用の有無を伺う。
3. 市内中学3年生の試験当日のトラブル把握件数を伺う。
4. 採点ミス問題についての市教委の認識と、市内受験者の採点ミスの有無を伺う。
5. スピーキングテストの結果によって志望校変更となった受験生はいるのか。状況を伺う。
6. 返却されたスコアシートの内容を受験生はどのように生かすのか。また、今後の英語教育に今回のテストの何をどう生かすのか、市教委の見解を伺う。
7. スピーキングテストに対する市内の受験生・保護者・教員の感想や要望などの声を伺う。
8. 市教委として、本テストに対する今後の実施意向を伺う。

以上